

「2019年3月期 第1四半期決算 電話説明会」シナリオ

「2019年3月期 第1四半期決算 補足資料」をもとに説明いたしましたので併せてご覧ください。
お手元がない場合は、お手数ですが当社IR サイトよりダウンロードをお願いいたします。
<http://www.olc.co.jp/ja/ir>

- ・実施日 2018年7月30日(月)
- ・説明者 執行役員（経理部担当役員） 霜田 朝之

【連結業績】

2019年3月期第1四半期決算の実績について ご説明させていただきます。

当四半期は、前年同期と比較して、

売上高は、108億円、9.9%増の 1,207億円

営業利益は、47億円、19.0%増の 298億円

経常利益は、47億円、18.3%増の 304億円

親会社株主に帰属する四半期純利益は、2億円、1.0%増の 211億円となりました。

【第1四半期業績の推移】

左側のグラフは、棒グラフが売上高、折れ線グラフが営業利益率を示しています。

右側のグラフは、四半期別の営業利益と親会社株主に帰属する四半期純利益の推移を示しています。

当第1四半期の売上高、各利益は過去最高の実績となりました。

【セグメント別の売上高】

セグメント別の売上高とその増減要因をご説明いたします。

①テーマパーク事業

売上高は、テーマパーク入園者数、およびゲスト1人当たり売上高が増加したことなどから、前年同期比99億円、11.0%増の1,007億円となりました。

入園者数およびゲスト1人当たり売上高については、1つ下の表「(2) テーマパーク関連情報」をご覧ください。

入園者数は、東京ディズニーリゾート35周年イベントの好調により、前年同期を上回りました。ゲスト1人当たり売上高は、東京ディズニーリゾート35周年関連商品販売の好調などにより、対前年同期を上回りました。

②ホテル事業

売上高は、東京ディズニーリゾート35周年イベントの好調により宿泊収入が増加したことなどから、前年同期比15億円、10.2%増の164億円となりました。

③その他の事業

売上高は、イクスピアリ事業の直営飲食店舗売却の影響などから、前年同期比6億円減、14.9%減の35億円となりました。

【セグメント別の営業利益】

セグメント別の営業利益その増減要因についてご説明いたします。

④テーマパーク事業

東京ディズニーリゾート35周年関連費用や準社員人件費などが増加したものの、売上高が増加したことなどにより、前年同期比37億円増の253億円となりました。

⑤ホテル事業

売上高が増加したことなどにより、前年同期比10億円増の38億円となりました。

⑥その他の事業

前年同期並みの5億円となりました。

【総括】

総括をさせていただきます。

対前年同期

当四半期実績を前年同期と比較いたしますと、売上高、営業利益ともに前年を上回りました。売上高については、東京ディズニーリゾート 35 周年イベントが好調に推移し、テーマパーク事業の入園者数およびゲスト 1 人当たり売上高が増加したことなどから増収となりました。営業利益については、東京ディズニーリゾート 35 周年イベント関連費用などが増加したものの、テーマパーク事業やホテル事業が増収となったことなどにより増益となりました。

対期初予想

当四半期実績を業績予想と比較いたしますと、売上高、営業利益ともに予想を上回りました。ゲスト 1 人当たり売上高がほぼ予想通りだったものの、テーマパーク入園者数が予想を上回ったことで、売上高および営業利益は予想を上回りました。

親会社株主に帰属する四半期純利益

親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期における子会社の税効果の影響が無くなったものの、売上高や営業利益が前年同期、業績予想とともに上回ったことにより前年同期および業績予想を上回りました。

通期業績予想

通期の業績予想についてですが当四半期はご説明したとおり推移したものの、第 2 四半期以降がテーマパーク入園者数のボリュームゾーンであることなどを踏まえ、現時点では第 2 四半期連結累計期間および通期の業績予想を据え置くことといたします。

以上